

# 3章 演算子と分岐分

---

# 目次

---

- 文字列の扱い
- データの比較
- if文・if-else文
- swicth文

# 文字列の扱い

---

## StringBuilderクラス

変数に格納した文字列を変更することが可能。一度生成した文字列に対して文字を追加したり置き換えたりできる。

# データ型の比較

---

## 参照型の比較

==演算子を使用可能だが、データの中身を比較でなく、参照先が同じかどうかを比較する。

## 文字列の比較

参照している文字列が同じかどうかを比較することが多い。equals()メソッドが用意されている。

# if文・if-else文

---

## if文

### 構文

```
if (条件式) {  
    処理文;  
}
```

# if文・if-else文

---

## if-else文

### 構文

```
if (条件式) {  
    処理文;  
} else if (条件式2) {  
    処理文2;  
} else {  
    処理文3;  
}
```

# if文・if-else文

---

## 条件演算子

3つの項目からなるので三項演算子に分類される。

### 構文

条件式 ? 式1 : 式2

## if文のネスト

処理ブロック内にさらに別のif文を記述すること。

# swicth文

---

多分岐処理のもうひとつにswicth文がある

## 構文

```
swicth (式) {  
    case 定数1 :  
  
        処理文1;  
    case 定数2 :  
  
        処理文2;  
        ⋮  
    default :  
  
        処理n;  
}
```



# swicth文

---

- switch文の式の結果は、データ型としてbyte、char、short、int、enum、Stringのいずれかの値である必要がある。
- switch文を抜きたい場合はbreak文を記述。ない場合は次のcaseに記述した処理文も続けて実行される。
- どのcaseにも一致しない場合の処理はdefault:を指定した後に処理文を記述。位置はswicth内のどこに記述してもよい。